

# 下野市立国分寺小学校

## 1 学校課題

学び合い、高め合える児童の育成（第1年次）  
～各教科の特質を生かした対話的な学びの  
実現に向けた授業の創造～



## 2 研究計画

### (1) 主題設定の理由

本校では、これまでの3年間の研究で、子どもたちが自分の考えをもち、広げ深める授業の改善に取り組んできた。その中で、児童の考えをグループやクラス全体で交流し、さらに深めるためには、教師のファシリテート力も必要であることを再認識した。

本年度は、新教育課程の本格的な実施の年である。身に付け伸ばしたい資質・能力を明確化し、何を学ぶか、どう学ぶかを、「学び合い、高め合う子ども」という本校の目指す子ども像に向かい研究を深め、主題の達成に迫りたいと考えた。

### (2) 基礎研究

- ①新教育課程のねらいや授業改善における視点の確認
- ②「対話的な学び」に関する先行研究の分析や研究内容の共通理解
- ③本校の昨年度までの研究実践の成果の整理・活用

### (3) 授業研究

- ①教科グループでの授業研究
- ②宇都宮大学共同教育学部附属小学校の教諭、市教育委員会指導主事に指導・助言を受けながらの研修（S&U コラボ事業、校内研修会）

### (4) 関連研究

- ①小中一貫教育

## 3 研究内容

### (1) 各教科における見方・考え方を意識した授業の実践

教科ごとに3～5名の少人数による教科グループを編成し、授業研究を行った。指導案検討の際には、各教科の特質に沿って、身に付けさせたい力や、ねらいを達成させるための具体策について話し合った。一人一人が多くの意見を出し合えるよう少人数のグループを編成し、話し合いの内容が深められるようにした。

### (2) 児童のコミュニケーション力を、対話的な学びへと実現させる授業の工夫

本年度はペア学習やグループ学習を行うことが難しいため、一斉授業の中で子ども達の意見をつなげたり、広げたりしていけるような教師のファシリテート力がより重要になると考えた。そこで、教師がファシリテーターとして子ども達の思考過程に沿った支援をしていくことを意識しながら、校内研究授業を行った。

### (3) 教師の指導力を向上させる教師の学び合い

学校課題研修のスタートとして、ファシリテーターの役割とスキルについて研修を行うことで、授業の中でどのような工夫ができるかについて共通理解を図った。また、学校課題研修のまとめとして、1年間の各教科グループの実践を紹介する場を設け、お互いの取組や工夫について共有できるようにした。また、S&U コラボ事業、校内研修会では講師の先生を招聘し、より専門的なお話を伺い、どのように授業改善に取り組むか協議の場を設けるようにした。

#### (4) 研究の足跡

月日(曜日)	種別	学年	単元名等	課題追究のための手立て等
7/22(水)	研修会			ファシリテート力について
10/7(水)	学校課題 (S&U)	1年	国語 「くじらぐも」	掲示物やペープサートの活用。
10/21(水)	学校課題 (全体)	6年	音楽 「いろいろな和音のひびきを感じ取ろう」	例示の工夫と、比較しながら演奏を聴く場の設定。
11/4(水)	学校課題 (グループ)	特支 6年	自立活動 「言葉を完成させよう」	意欲的に活動できるような課題設定の工夫。
11/6(金)	学校課題 (グループ)	6年	道徳 「ロレンゾの友達」	個々の考えを明確にし、主体的に参加できるようなツールの活用。
11/17(火)	学校課題 (グループ)	5年	算数 「台形の面積の求め方」	意見交流の方法や場の工夫。
11/26(木)	学校課題 (グループ)	3年	算数 「三角形を調べよう」	小グループ活動での話し合いの場の設定。
12/1(火)	学校課題 (グループ)	6年	社会 「中国やロシアと戦う」	資料や課題の提示の工夫。
12/23(水)	研修会			今年度のまとめ

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 成果

- ① 「対話的な学び」の実現に向けた手立てとして、「教師のファシリテート力の向上」に重点を置いて研究したことで、その重要性を共有し、授業内でどのように取り組んでいけばよいかという意識の向上へとつながっていった。教師の問い返しや、意図的な働き掛けが、児童同士の意見をつなげたり、全体へ広げたりするために、有効的であることを改めて実感できた。
- ② 少人数の教科グループでの研究により、多くの職員の声を授業につなげることができ、教科の「見方・考え方」についてより深く考えることができた。また、様々な教科や学年の授業参観の機会があったことにより、指導法の幅を広げたり、発達段階に応じた指導について考えたりすることができた。

### (2) 課題

- ① 教師の指導力がどれだけ向上したのか、「対話的な学び」を実現した姿とは何か、見取る際の指標となる姿が不明瞭であった。より具体的に検討していくためにも、教師の働き掛けと、それによる児童の姿を事前に明確にし、指導後の児童の変化や能力の向上を見られるようにしたい。
- ② 各教科グループの研究内容の共有が難しかった。今年度はまとめとして研修の中で紹介したが、今後は、共有の機会を増やすとともに、映像や写真、ツールも共有することで他の教員も授業で生かしていけるような仕組みを考えていきたい。

